

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図るセメスター制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動の充実を図る。</p>	<p>①セメスター制導入に係る諸課題を解決し、新教育課程を有効に活用した学習指導や履修指導に取り組む。</p> <p>アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業の実践と組織的な授業改善を推進する。</p>	<p>①生徒のニーズや進路希望を調査し、年次進行型セメスター制教育課程を完成し、履修指導における校内体制を整える。</p> <p>①授業改善に関する校内研修や授業研究の機会を増やし、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。</p>	<p>①生徒の多様な進路実現を図る年次進行型のセメスター制教育課程の2年目、3年目ができ、履修指導の導入準備ができたか。</p> <p>①校内研修や研究授業を通じた授業改善を積極的に行い、生徒の満足度を高めることができたか。</p>	<p>①年次進行型のセメスター制の教育課程を完成させ、2年次における必修科目のうち「数学A」・「生物基礎」・「コミュニケーション英語II」の3科目を1年次のようにホームルーム単位での授業展開にする時間割を導入した。</p> <p>①教員の相互授業見学は活発に行われ、また、新任研修会なども含め授業改善に向けて活発に議論する機会もあり成果が見られた。</p> <p>①生徒による授業評価から、90%以上の生徒が授業に満足しているという結果が得られた。全ての質問項目の「とても当てはまる」という回答(肯定評価)が、前期(7月実施)に比べ後期(12月実施)は、2～5ポイント増加した。</p>	<p>①年次進行型のセメスター制の教育課程を完成させたものの、すでに半期完結する科目において、時間割の偏りが生じており、来年度に向けて見直す必要がある。</p> <p>①相互授業見学は期間を設けているが、普段から授業見学を頻繁に行える雰囲気づくりができると、より効果的になる。</p> <p>①生徒による授業評価の肯定的な回答の割合を、現在と同じ90%以上に維持していくためには、今後も組織的な授業改善を工夫し推進していく必要がある。</p>	<p>①セメスター制を導入したことによって、集中的・効率的な学びの実現、密度の濃い学びが期待できる。また教育課程をより良くするための工夫改善に積極的に取り組み、成果を上げている。今後は生徒の履修状況を分析し、より効率的に実施できるよう見直しを図る必要がある。</p> <p>①教員全体で授業改善に取り組む姿勢がつけられている。教員間相互の授業見学もきちんと行われており、それぞれの気づきによって指導方法の改善につながることを期待できる。教員相互の授業見学の際のアンケートに「改善したほうが良いと思う点」の項目を追加すると効果が高まる。</p>	<p>①年次進行型セメスター制の教育課程を完成させ、2年次でのホームルーム単位での授業展開を3科目計8単位分時間割に導入することができた。基礎科目の充実、円滑なクラス運営や学校行事の活性化が期待できる。</p> <p>①授業見学の実施により、授業の工夫などの具体的な知識や手法について教員間の情報交換や相互にアドバイスをする機会が増え、組織的な授業改善が進んだ。</p>	<p>①2年次を対象に実施される学力調査において、セメスター制導入の効果が表れるか検証する。また、3年次の時間割を組み立てる際に、ホームルーム単位での授業展開を導入すべきか、半期完結する科目の配置等について引き続き検討する必要がある。</p> <p>①授業見学の実施パターンが例年同じで、見学をすることができる授業に限られてしまっている。今後異なる分野を見学するためにも日程や回数の見直しを行う。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。</p> <p>②専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①生徒の主体性を重視し、部活動や生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>②教育相談コーディネーターや養護教諭、各カウンセラーなどの緊密な連携のもと、一人ひとりの生徒に応じた組織的支援の充実を図る。</p>	<p>①生徒のリーダーを育成し、部活動や生徒会活動が自主的に行われるよう支援する。</p> <p>組織的・積極的な勧誘を行い、部活動加入率を高め活動を活性化する。</p> <p>②教育相談コーディネーターや養護教諭、各カウンセラーなどの支援体制を整え、生徒情報の共有やケース会議の開催などにより、組織的な生徒支援を図る。</p>	<p>①育成したリーダーを中心に自主的な運営がなされたか。</p> <p>②校内の支援体制を整えることができたか。</p> <p>生徒情報の共有とケース会議の開催を円滑に行い、具体的な生徒支援につなげることができたか。</p>	<p>①体育祭・文化祭を通じて、主に3年次や生徒活動G主担当者を中心にリーダーを指導・育成した結果、自主的かつ組織的な運営がなされた。また、部活動加入率を上げるため新入生の部活動見学を組織的・積極的に進めたが、加入率は、前年度1年次(現2年次)に比較して1年次男子が9%増、女子が7%減、全体としては59%となり前年度(62%)の1割増し(68%)以上には達しなかった。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーが中心となり、スクールカウンセラーとも連携し、生徒・保護者及び教員の相談に対応した。</p>	<p>①生徒会行事において、リーダーを中心に自主的な運営をするためには、生徒活動G担当者だけでなく、リーダーの在籍する年次団の指導・協力体制が大変重要である。</p> <p>部活動加入率を一層上げるためには「HPへの広報を活発にする」、「学校説明会を利用して本校の部活動の取組を説明する」などを強化し、部活動に積極的に取り組む意欲のある生徒の入学を促すとともに、次年度に向け「4月全員部活動登録制」を導入す</p>	<p>①生徒のリーダー育成に積極的に取り組み、文化祭などの行事などにおいても生徒主体の活動が見られ成果を上げている。生徒の気持ちを大切に、達成感や満足感を味わわせるような指導を引き続きお願いしたい。</p> <p>部活動は教育的観点からも重要である。加入率の向上に向けては、部活動の意義や感動を伝える機会を設けて生徒に働きかけたり、「あったら入部したい部」、「入部しない理由」など生徒のニーズを調査するなどの工夫をし、対策を検討すると良い。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセ</p>	<p>①生徒会3大行事では、リーダーを中心に自主的な運営ができた。文化祭では生徒とともに頭髪・服装ルールを新たに策定することで、生徒の満足度が向上した。</p> <p>部活動加入率向上に向けホームページや学校説明会での広報や、校内での働きかけを実施した。</p> <p>②支援が必要な生徒に対して、ケース会議を全年次で行い効果的な対応を実現した。スクールソーシャルワーカーやスク</p>	<p>①自主的かつ秩序ある生徒会行事を定着させるため、生徒との対話を通しルールを明確化し、生徒が自主的にルールに基づいた行動をとるとい、好ましい意識醸成を目指した働きかけを継続して行う。</p> <p>また、部活動への加入率向上に向けては、1年次4月全員部活動仮入部制を実施するとともに、入部しない理由や、あったら入部したい部の調査を行って生徒の望む部活動像を把握した上で、効果的</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
					<p>養護教諭や教育相談コーディネーターを中心に14件のケース会議を実施し、情報の共有と課題解決に向けた支援の検討を進めた。また、特別支援学校と連携し、生徒の授業を観察してもらい、支援方法の助言をいただいた。</p>	<p>るなど、在校生の部活動への意識を高める検討も必要である。 ②スクールカウンセラーへの相談ニーズに応えきれない現状があるため、支援方法を整理する。</p>	<p>ラーと連携し生徒や保護者の相談によく対応できている。組織的な支援はととても大切なことなので、今後も相互に情報交換を行い、より緊密な連携を進めてほしい。</p>	<p>ールカウンセラーが中心となり、生徒等の相談に効果的な対応ができたが、スクールカウンセラーの来校数が少ないため、スクールソーシャルワーカーが相談業務を代替する場面も生じた。</p>	<p>な対応を検討する。 ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割分担や連携方法について整理し、養護教諭や教育相談コーディネーターを中心とした支援体制を強化する。</p>	
3	進路指導・支援	<p>○生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力と態度を育む指導・支援の充実を図る。</p>	<p>○外部の人材や教育力の活用、模擬試験の効果的実施などの取組を工夫し、キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○外部講師を招聘した教員向け研修会を実施し、生徒に対するガイダンスを充実させる。 ○外部の人材や教育力を活用し、生徒の校内での学習や校外での体験活動などの充実を図る。 ○校内模擬試験の内容改善を行い、生徒の進路意識の高揚を図る。</p>	<p>○教員向け研修会の成果を生徒との面談などに活用し、各生徒の進路選択に役立てることができたか。 ○生徒の学習活動に外部の人材や教育力を有効に活用し、活用回数を増やすことができたか。 ○校内模擬試験の改善により生徒の進路意識が高まったか。</p>	<p>○スタディーサポートの担任向け資料をもとに面談週間前に資料の活用方法についての研修会を実施し、各生徒の進路選択等に役立てることができた。 ○今年度もインターンシップに53名参加し、校内で報告会を実施した。その中から何名かを地区の報告会等の外部で実施される発表会に参加させ、外部の教育力活用を増やした。 ○今まで希望者に実施していた模擬試験を11月に1・2年次全員に受験させた。</p>	<p>○スタディーサポートの結果を踏まえ、更に効果的な授業を各教科がどのように構築していくかが今後の課題である。 ○インターンシップ実習中のトラブルもなく無事に終了した。今後はインターンシップで得た成果を共有する報告会における、生徒のモチベーションのように高めていくかが課題である。</p>	<p>○スタディーサポートを効果的に進めるため担任向けの資料を使った研修会を実施したことは、担任が共通認識をもって組織的に取り組むことができた。 ○働くことの意味を考えさせるインターンシップは貴重な機会で、地域の学校で最多の参加人数があったことは大変評価できる。限られた時間の中でより効果を上げるため、事前事後指導の充実を進めてほしい。また受入先の企業の確保の努力を継続して行ってほしい。</p>	<p>○スタディーサポートについての教員向け研修会を行った結果、担当教員全体で共通認識を持って生徒との面談を実施することができた。 ○今年度初めて実力判定テストを全員に受験させた。 ○インターンシップの参加者等を地区や文教大学主催の発表会に参加させ高い評価が得られた。</p>	<p>○教科指導と進路指導の更なる充実を図るため、スタディーサポートや実力判定テストの結果の検証を行い、日常の指導をより効果的に進めるために必要な具体的な方策を、今後検討する。 ○生徒の達成感や自己肯定感を高め、より高い能力を引き出すことに効果がある校外での発表会等への参加を推進する。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>○本年度から導入するコミュニティ・スクールの円滑な運用を図り、地域や保護者等との交流や連携をさらに深める。</p>	<p>○コミュニティ・スクールの組織を立ち上げて機能させ、地域行事やボランティア活動などへの生徒参加や地域との連携を推進し、生徒の教育活動に生かす。</p>	<p>○地域行事やボランティア活動に参加する生徒が増え、地域貢献を通じた教育活動の充実が図られたか。 ○コミュニティ・スクールの機能をさせ、コスモス栽培などに関する地域連携事業を推進することができたか。</p>	<p>○YOUNG FESTIVAL IN CHOGOに、吹奏楽部、軽音楽部、ダブルダッチ部が参加し、運営にも協力した。またダブルダッチ部は大庭及び鶴沼市民センター等で行われた催しにも参加し、小学生との交流を行った。 ○文化祭では一般公開日に2500人の来場者があり、本校の教育活動をPRすることができた。 ○コミュニティ・スクールの組織を立ち上げ、地域行事やボランティア活動などへの生徒参加や地域との連携を推進し教育活動に生かすことができた。コスモスの栽培も順調に進み、10月にコスモスの集いを実施した。</p>	<p>○地域と連携した各種の活動は、生徒課題解決能力やコミュニケーション能力の伸長を期待できることに加え、自己有用感の醸成により自発的かつ前向きな活動につながる。今後長後教育フォーラムや5校連絡交流会とも連携を図りながら、参加できる地域活動を増やすための検討を進める。 ○コミュニティ・スクールに指定されている各校での連携活動に関する情報し参考にするすることで、本校における新たな地域連携の形を検討し、より効果的な教育環境づくりを推進する。</p>	<p>○様々な機会を捉えて積極的に地域と交流し、地域貢献や地域との協働を通じた教育活動を推進しようとする姿勢が見られた。子供たちは今、縦の年齢間交流の場が少なくなってきたりしているが、中学校との連携や地域のイベントに積極的に参加している点が大いに評価できる。今後このような活動を通して生徒たちに育まれたものや、生徒たちの変容などの報告を期待する。 ○これまでも長後共育フォーラムや地域の事業・イベントに積極的に参加してきているが、コミュニティ・スクールの運用が開始されたことで、より効果的な教育環境の整備が期待できる。</p>	<p>○YOUNG FESTIVAL IN CHOGOやふれあいコンサート、市民センター関連行事などのイベントに多くの生徒が参加し、市民の方々との交流を深めるとともに、地域の活性化にも貢献できた。 ○コスモス栽培管理をはじめとした地域と連携した活動では、生徒の前向きな姿勢を引き出すとともに自己肯定感の向上など教育的効果が高めることができた。</p>	<p>○地域と連携した様々な活動は、高い教育的効果が認められるため、コミュニティ・スクール2年目の次年度は、学校運営協議会や生徒の意見、及び様々なアイデアを柔軟に取り入れ、新たな活動機会の開拓を積極的に進める。 ○コスモス栽培管理に更に多くの生徒が参加できるよう、県が推進する「地域貢献デー」の活動内容に位置付け、全校での取組としていくことを検討する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5 学校管理 学校運営	○職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。	○職員の教育力向上や不祥事防止に向けた取組や研修を継続的に行う。 ○地域と連携した防災訓練等を実施し、災害対応に対する職員や生徒の意識を高める。	○職員の資質向上や不祥事防止に向けた研修をより有効なものとなるよう工夫し、計画的かつ継続的に行う。 ○学校と地域が連携した防災訓練やDIG研修を実施し、防災教育の充実を図る。	○研修会のアンケート結果などに研修効果の向上が見られ、職員の事故・不祥事を未然に防止することができたか。 ○地域と連携した防災訓練やDIG研修を実施し、職員や生徒の防災意識を高めることができたか。	○事故防止研修会を本年度6回実施、また毎日の朝の打ち合わせ資料に事故防止に向けた留意事項を記載した。このように職員の意識向上を図る働きかけを行った結果、事故発生件数は0件である。 ○11月に行われた「長後地区総合防災訓練」に職員及び生徒が初参加し、地域と連携した防災訓練による防災意識向上を図ることができた。 ○DIG研修については、担当職員が校外研修に参加したが、全職員を対象とした研修は日程の調整がつかず実施できなかった。	○職員の意識の高さを維持するため、事故不祥事防止に向けた働きかけを引き続き推進する。また、入学者選抜業務については、本年度から採点業務の方法や手順が変更されたので、事故防止のための具体的な対策を図った。 ○本校は災害時における藤沢市の避難施設に指定されていることから、今後DIG訓練については、避難施設運営委員会等と連携し地域の方々の意見や経験を取り入れ、より充実したものとすの検討を進める。	○事故防止研修会の実施や毎日の情報共有など、積極的に職員の意識向上が図られ、事故件数0件という結果に繋がっているのは評価できる。今後も他校での事故事例も他人事ではなく高い意識で捉え、より一層意識を高めて危機管理の徹底を図ってほしい。 ○長後地区総合防災訓練へ生徒ボランティアの参加などもあり、地域との関係強化を推進し意識向上に努めている。校内での訓練も更に強化し、防災教育の一層の充実を期待する。 ○目標に対する取組は適切である。職員の取組がよく進み、生徒の活動に反映されている。成果を外部に発信し、アンケート結果を生徒にフィードバックするとよい。	○毎月の事故防止研修会、及び毎朝の職員打合せ資料への事故防止ポイント記載を継続し、職員の高い意識を維持して年間無事故を実現することができた。 ○11月に富士見台小学校で実施された長後地区総合防災訓練に、生徒がボランティアとして初参加し訓練の運営に協力をした。生徒への防災教育さらに充実させる必要がある。	○これまで実施してきた事故不祥事防止に向けた啓発活動を継続することに加え、新たな手立てについても検討する。 ○DIG研修や校内防災訓練の充実を図るとともに、地区総合防災訓練への協力体制を強化するなど、防災教育を推進する。また、藤沢市により指定されている災害時避難施設としての備えを充実させる。